

指導教員名	青山将己
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	NPO団体
	情報分析型		

～ 須磨海水浴場のユニバーサルデザイン化に向けた活性化事業 ～

活動の様子



企画・活動概要

本プロジェクトでは、国際環境認証「ブルーフラッグ」の認定を受けている須磨海水浴場のさらなるユニバーサルデザイン化に向けた、活性化事業を展開する。ブルーフラッグとは、サステナブルな海辺を評価する国際環境認証制度で、SDGsの17ゴールすべてに関わるプログラムである。毎年更新の審査を受けることが義務づけられており、継続のためには絶え間ない努力が必要とされる。そこで、アカデミックパートナーとして締結しているNPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトの活動への参画、須磨周辺の環境調査を実施し、ブルーフラッグの更新に向けた知見を提供する。

経緯・背景・目的

ブルーフラッグを取得するには、4カテゴリー（水質、環境教育と情報、環境マネジメント、安全性・サービス）と33の基準をクリアする必要がある。ブルーフラッグビーチは単に「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」というだけでなく、障害の有無に関わらず誰もが楽しめる、環境的にも美しいビーチ、という点が求められる。須磨海水浴場は、「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」であるものの、周辺施設を含めたユニバーサルな環境という点においては、課題も残されている。本プロジェクトでは、特に須磨周辺の「環境整備」に着目し、各種調査を実施することを目的とした。



取り組む課題

須磨海水浴場では、夏季シーズンにビーチマットが設置され、車椅子でも砂浜への移動可能な環境が整備されている。一方で、最寄駅のJR須磨駅南側はエレベーターが設置されておらず、海水浴場へのアクセシビリティが十分とはいえない。また、周辺の飲食店を含め、ユニバーサルデザイン化にはまだまだ課題が残されている。須磨海浜公園のリニューアルに伴い、ユニバーサルツーリズムとしての可能性を秘める中、さらなるアクセシビリティ向上に向けた取り組みが求められる。本プロジェクトでは、WheelLog!と呼ばれるアプリを用い、バリアフリーマップの作成にチャレンジする。

本学(学生)の役割

本学学生は、夏の毎週末に実施される須磨ユニバーサルビーチの参加者にアンケート調査、聞き取り調査を実施し、須磨までの交通経路や動線、観光の有無について情報を収集した。その後、WheelLog!と呼ばれるアプリを用い、バリアフリーマップの作成にチャレンジした。JR須磨駅、山陽須磨公園駅、JR須磨海浜公園駅をそれぞれ発着とし、道路における段差の有無、飲食店における車いす利用の可否、エレベーター、階段、ユニバーサルトイレの有無等について、街歩きをしながら探索した。得られた情報をWheelLog!アプリに共有した。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

マップ作成に伴い、ユニバーサルトイレはどこに設置されているか、車椅子のまま飲食店の利用は可能か等、200以上の飲食店に聞き取り調査を実施した。普段は何気なく歩いている道であっても、車椅子ユーザーにとっては10cmの段差が障壁となっており、また、美味しいご飯を食べたくても、入り口が狭ければ入店できない、そんな当事者が抱える悩みを、学生たちは身をもって感じ取った様子であった。ユニバーサルツーリズムは障害者だけでなく、例えばベビーカーを利用する子育て世代も対象となる。そういった意味では、学生たち自身も「他人ごと」ではなく「自分ごと」として実感する機会となった。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
准教授
青山将己 (アオヤママサキ)

<専門・担当科目等>
【スポーツプロモーション】
スポーツビジネス論、
健康・スポーツ関連企業分析、
健康サービス企画運営演習ほか

<関係者・企業等>

NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト
代表理事
木戸俊介 (キドシュンスケ)